



〔左から〕佐藤市長、大場社長、大場会長

障害者雇用に先進的取り組み

厚生労働大臣が、障害者雇用の促進と、雇用の安定に関する取り組みが優良な中小事業主を認定する「もにす認定」に、電気機械器具製造業の株式会社大場製作所(築館地区)が認定されました。認定を受け、3月16日(木)、大場俊哉社長と大場俊孝会長が市長を訪問し、報告しました。令和2年の制度開始以降、認定は県内で6例目。製造業では初めてとなり「今後も障害の有無にかかわらず、共に協力して働ける環境を守りたい」と、大場社長が抱負を述べられました。



種類を超えた演奏会

3月12日(日)、栗原文化会館でアフターコロナ社会を盛り上げる催し「みやぎミュージックフェスタ2022 in くりはら」を開催しました。宮野小学校鼓笛隊のオープニングに始まり、合唱や大正琴、和太鼓、弦楽器や吹奏楽の団体が出演。フィナーレでは、栗原ドリームアンバサダーで市民歌の作曲者、渡部勝彦さんの指揮で全出演者による「栗原の詩」が披露されました。来場者は、会場に響き渡る音楽をゆったりと鑑賞していました。



長寿100歳おめでとうございます

3月18日(土)に村上トミコさん(栗駒栗原根岸)、25日(土)に佐藤ヤチ子さん(栗駒東方区)、30日(木)に秋山香代子さん(一迫片子沢)、31日(金)に菅原やぶさん(築館八幡町)、4月9日(日)に伊藤のりをさん(栗駒菱沼)が100歳を迎えられました。村上さんは、日常生活は基本的に自分でいき、常に体調管理に気を付けて、ご飯もしっかり食べて、生活しているそうです。佐藤さんは、手先が器用で縫い物が好きとのこと。また、運動が得意で足も速かったそうです。秋山さんは、若い頃は婦人会の活動に力を入れ、忙しい日々を過ごしていたとのこと。好き嫌がなく、何でも食べることが元気の秘訣だそうです。菅原さんは、若い頃から編み物や縫い物が得意で、地区の文化祭では手作りのつなぎや服、チョッキを多数出品してきた他、知人に贈ることもあったそうです。伊藤さんは、新聞を読んだり、テレビを見たりして過ごし、家族が声を掛け合いながら、体調管理を行っているそうです。

〔上段左から〕村上さん、佐藤さん
〔中段左から〕秋山さん、菅原さん
〔下段〕伊藤さん



〔左から〕熊谷さん、小野寺さん

地域おこし協力隊へ委嘱状を交付

4月3日(月)、新たに栗原市地域おこし協力隊員として、交流・移住プラットフォーム創出プロジェクト推進業務に携わる熊谷智彦さんと、花山地区小さな拠点づくり推進業務に携わる小野寺裕昭さんに委嘱状を交付しました。熊谷さんは「地域に貢献しながら、自分らしく活動していきたいです」と、小野寺さんは「地域おこし協力隊の名の通り、地域の皆さんと協力しながら、貢献していきたいです」と、今後の意気込みを語っていました。



農林水産大臣賞受賞

交通安全思想を広く社会に訴えるため、全国の小・中学生を対象に「第51回(令和4年度)JA共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクール」の募集が行われました。その結果、全応募作品約9万9千点の中から、宮野小学校4年生(当時)の菊地絢翔さん(築館宮野下町)の作品「農業機械も交通ルールを守ろう!」が、農林水産大臣賞を受賞しました。菊地さんは「交通ルールを守ってほしいと思い、描きました。受賞できてうれしいです」と、語っていました。



栄誉の楯を贈呈

3月9日(木)、スポーツ、文化、芸術などの分野で世界的な活躍をした人に贈る「栄誉の楯」を、呉地正行さん(若柳下町1)に贈呈しました。呉地さんは、1970年代からガン類の渡り経路の解明に取り組み、水田の生物多様性の向上、渡り鳥生息地として質の向上を目指す活動、湿地を生息地とする鳥類の保護活動などが評価され、日本人で3人目のラムサール賞を受賞されました。ラムサール賞ワイズユース(湿地の賢明な利用)部門での受賞は、日本人初の快挙です。



高齢者叙勲を受章

令和4年12月1日(木)付けの発令で、旧築館町消防団副分団長の菅原常夫さん(築館太田)に、瑞宝単光章が授与されました。菅原さんは、昭和33年4月に消防団に入団し、以来36年もの間活動してきました。受章にあたり「旧築館町が近隣の村と合併して間もない時期に入団しました。皆さんと協力しながら活動に当たったことが思い出されます。仲間の協力があって受章することができました。ありがとうございました」と、喜びを述べられました。